

金 邦夫 著

『すぐそこにある遭難事故』 奥多摩山岳救助隊員からの警鐘

金氏は警視庁青梅警察署山岳救助隊を20年間務め、多くの遭難事故を取り扱ってきた。2013年退任され、今は私達がお世話になっている山岳救助機構jR0の顧問をされていると聞いている。奥多摩の有名人であり出会った方も多いのではないかと思う。

まず冒頭、100m転落すれば剣岳でも奥多摩でも結果は同じ、侮るな「東京の山」と注意を促す。北アルプスや北海道の山々に於ける大量遭難のようなインパクトの強い遭難事故はないが、警視庁で毎年纏めている全国山岳遭難の統計によれば東京都の遭難件数は長野県、富山県、岐阜県などと並び常に上位に位置し、死者・行方不明者も毎年10名前後出ているという。

奥多摩は「東京の山」という手軽なイメージもあって、ジープ、スニーカーなどで、運動等あまりした事もないような人まで出掛けてくるが、ところがどっこい、東京の山とはいえ谷は深く尾根は急峻、全国47都道府県の中で標高2000m以上の山のない府県は31もあるが、東京都の最高峰、雲取山は2017mあり東京都は立派な山岳地帯でもあるのだと述べる。確かにその通り、馬鹿にはいけないのだ。

以下、目次からこれだけは是非目を通して欲しい項目を幾つか書きだしてみた。

- ☆当ての無い搜索は東京ドームで10円玉を探すに等しい・せめて登る山とコースを記したメモを残すべし
- ☆深刻な転落から奇跡の生還・事故はまたしても奥多摩の「魔の場所」で起きた
- ☆この警告を何度でも何度でも言わせてもらおう・「道に迷って沢に降りたら死ぬぞ」
- ☆同じ山ヤとしてあえて言う・あなた達、山岳会員としてもっとプライドを持って
- ☆御前山に於ける遭難事故二題・「まさかこの山で」の行方不明でいまだ1人発見ならず
- ☆なぜに多い単独登山者の「神隠し」・独り静かに山を楽しむ寡黙なおじさん族は要注意！
- ☆事故はいつも同じ場所で起きる・雲取山の事故多発場所、大ダワ林道に入るな
- ☆転落遭難事故の顛末二題・初心者のお粗末事故、一瞬のミスによる死亡事故が今日も
- ☆はぐれ遭難の狩倉山

これらの他にも親しい山野井泰史氏がクマに襲われた顛末を語る項、動物の救助要請、山での強盗事件、鍾乳洞地底湖から25年ぶりに引き上げられた若者の遺体等々20年に渡る山岳救助隊員としての経験からくる興味深いお話が続き厭きさせない。人間はもとより動物や自然に寄せる暖かい眼差しも感じさせられ一気に読破した。

著者は1947年山形県小国町生まれ。日本山岳会会員。本書の他に著書「奥多摩登山考」、「金副隊長の山岳救助隊日誌」等あり。

2015年5月 東京新聞刊 1400円

(AKA)

